

パートナーシップシティ

市民とのパートナーシップによるまちづくりを進める「鹿児島市」。
福祉や教育などさまざまな分野にわたる地域課題の解決に向け、行政と協働して取り組む市民活動団体やNPO法人などを紹介します。

Vol.20

鹿児島市地域消費者リーダー



身近な消費者トラブルを防ぎたい

「振り込め詐欺に遭って50万円払ってしまった。まさか自分がたまされるとは」。以前行った消費生活講演会の席で、隣にいた高齢の女性の言葉に驚きを隠せませんでした。それまではニュースで流れる程度の話だと思っていたのです。

振り込め詐欺や悪質商法などの消費者トラブルは、私たちの身近なところで日々起きています。

鹿児島市消費生活センターに寄せられる相談は、年間約4500件。これでも実際に起こっているトラブルのほんの一部だそうです。

私たち地域消費者リーダーは、これらの現実が起こったトラブルを地域の人々に伝え、被害を未然に防ぐために、消費生活センターの事業により、平成21年度から活動していま

す。各地域のお達者クラブなどに出向き、消費者トラブルに関する講座を行ったり、近所で耳にした悪質商法などの情報を消費生活センターに伝えたりと、行政と市民との橋渡し役としての役割を担っています。

当初21人でスタートしましたが、消費生活センターの取り組みの効果もあり、現在、36人に増えました。メンバーそれぞれが「被害を減らしたい」、「被害に遭った人の役に立ちたい」という思いを共有しています。

メンバーそれぞれ工夫した講座

これまでに、計136回、延べ3500人以上の方を対象に講座を行ってきました。

活動を始めた当初は、どのように話せばうまく伝わるのかが分からず戸惑うこともありました。

より分かりやすい講座となるよ

う、毎回工夫を重ね、今ではメンバーそれぞれがクイズや寸劇、紙芝居などを織り交ぜて、独自の講座を作り上げています。

私の講座は、過去の教師経験を生かしたオースドックスな授業スタイル。悪質商法の手口や解決方法を一つ一つ丁寧に説明します。難しそうな話でも関心を持ってもらえるように、話の合間に小道具を使った説明を取り入れるなど工夫しています。

講座の締めによく使うのは、メンバーの一人が作った振り込め詐欺撃退ソング「もしもし振り込め詐欺君」。童謡「うさぎとかめ」の歌詞を替えて作ったこの歌は、どこの講座に行っても興味を持って歌っていただけです。

被害を見逃さないために

講座を行うときは、聞いている人の表情にも気をつけるようにしてい

ます。被害の実例の話で、うつむき気味になる人は実際に被害に遭っている可能性も。そんなときは、講座の最後に「困ったことがあったら、そつと言ってくださいね」と伝えるようにしています。また、自身の失敗談を話すのも、その人の本音を引き出す方法の一つ。

講座が終わると、直接相談してもらえたり、「聞けてためになった。次からははつきり断る」などと感想を言っていたりすることもあり、誰かの役に立っている喜びを感じます。講座をしている私も同じ一消費者。親近感を感じて何でも話していただけるとうれいですね。

地域の笑顔を守りたい

この活動を始めて4年余り、さまざまな消費者被害の実例に触れ、ますます自分たちの活動の大切さを感じます。





契約〇×クイズを行う地域消費者リーダーの荒平さん



熱心に講座に耳を傾ける日之出会お達者クラブの皆さん



武岡さわやかお達者クラブでの出張講座(クーリング・オフクイズ)の様子



悪質商法対策寸劇に挑戦



だまされないために

取◆材◆メ◆モ

地域消費者リーダーの講座の間、うなずきながら熱心に耳を傾けるお達者クラブの皆さんの様子が印象的でした。高齢者が被害者となる消費者トラブルは、近年増加傾向にあるそうです。

この活動により、多くの人が消費者トラブルから救われているのではないかと思います。

問い合わせ ☎258・3611
(市消費生活センター)



地域消費者リーダー
福岡 志津子さん

話をしてくれた人

悪質商法などの手口が、年々巧妙化する中、それが誰にでも起こりうる身近な問題であることが伝わりにくいのが現実です。消費生活センターの取り組みをサポートし、地域により密着した情報発信ができるのは私たち。

これからも地域にたくさんの講座を届け、地域の笑顔を守っていきたいと思います。